研究代表者	所属学系・職名　心理学系（旧　人間・心理学系）　教授 氏　　名　内　田　千代子
研究課題	原発事故後の福島県の大学生の精神保健の実態調査および心理教育の効果 Mental Health Survey of University Students in Fukushima after the Nuclear Disaster, and Efficacy of Psychological Education.
成果の概要	この研究の目的は、震災原発事故後の福島県の大学生の精神保健の実態を知り、有効なサポートをすることである。自己記入式質問紙調査から、原発事故後の福島の大学生の精神保健の現状を把握する。それを参考にして心理教育プログラム（放射能に関する知識、ＰＴＳＤ等精神保健知識とストレスマネジメントの教育）を施行して、その有効性を評価する。 ①東日本大震災に関する質問紙調査を行った。震災発生時にいた場所、震災による被害の状況、震災後のライフライン損害等について、および、地震や津波や原子力災害による放射能への不安などについてのストレス状況を、震災当時と現在について尋ねた。ストレス状況は、被害にあった学生および被災県にいた学生の方が強かった。現在においても同様の傾向が認められた。 ②漫画の「美味しんぼ」に記述された「放射能で鼻血が出た」という内容が世間で話題になったが、そのことについてのディスカッションを行った。グループに分かれてそれぞれ、原発や放射能に関するプロジェクトを組みプレゼンテーションを行った。発表の前後で、質問紙調査を行った。この取り組みを通して、福島の原発、放射能問題についての学生の関心が高まったが、不安も増す傾向が認められた。放射能に関する科学的知識とメンタルヘルスやストレス対処について学びたいという学生の希望は増加した。ボランティア活動に関しては特に興味が増加することはなかった。このプロジェクトに取り組みディスカッションすることによって自分たちの問題として真剣に考えたいという意欲が認められた。 ③若者の自殺予防についての現状、精神疾患との関係についての講義、および友人の自殺の危険の際の対処方法についての講義を行い、その前後の質問紙調査によって学生への教育効果をみる試みをした。日本の自殺の現状、特に若者の自殺の現状についての知識が不足する学生が多かった。「自殺の危険のある友達に自殺したいと思っているか聞けると思う」「そうすれば、その友達が自殺してしまう可能性が減少すると思う」「自殺の危険のある友達の自殺を止めることは意味のあることだと思う」という項目は、講義の後に「そう思う」方向に変化する傾向が認められた。 今後さらに調査および予防教育を進め、教育効果を検討して有効なサポートに繋げたい。